

AI自動化を前提としたサーバー比較ポイント一覧

AI活用を見据えたサーバー選定は、単なるスペック比較を超え、運用設計と将来的な拡張性を考慮した多角的な視点が必要です。本チェックリストは、AI自動化ワークフローの安定稼働と事業継続性を確保するための主要な判断基準を整理したものです。

1. リソース管理とパフォーマンス

- ☐ **共有サーバーとVPSの選択:** AIバッチ処理や高負荷タスクの実行頻度を考慮し、リソースの独立性（VPS）が必要か、共有サーバーで許容範囲かを確認する。
- ☐ **CPU・メモリの保証:** AI処理に必要なCPUコア数とメモリ容量が、契約プランで保証されているか、または柔軟に拡張可能かを確認する。
- ☐ **I/O性能:** データベースへの頻繁な書き込みや大量ファイル処理に対応するため、NVMe SSDなど高速なストレージが採用されているかを確認する。
- ☐ **スケーラビリティ:** 事業成長やAI処理の増大に合わせて、ダウンタイムを最小限に抑えつつ、上位プランへの移行やリソース増強が容易かを確認する。

2. 表示速度とユーザー体験 (UX)

- ☐ **Core Web Vitalsへの対応:** サーバー応答速度（TTFB）がLCPに影響を与えないか、高速なレスポンスが期待できるかを確認する。
- ☐ **キャッシュ機能:** サーバーサイドキャッシュやブラウザキャッシュの導入が容易か、または標準で提供されているかを確認する。
- ☐ **CDN連携:** AI生成コンテンツの増大による負荷分散のため、CDNとの連携が容易か、または標準で提供されているかを確認する。

3. データ保全と事業継続性

- ☐ **自動バックアップの頻度:** AIによる更新頻度を考慮し、1日1回以上の自動バックアップが提供されているかを確認する。
- ☐ **バックアップ世代管理:** 過去の複数時点に復旧できる世代管理機能が提供されているか（例: 14～30世代）。
- ☐ **復旧の容易性:** 障害発生時に、管理画面からワンクリックで復旧できるなど、RTO（目標復旧時間）を短縮できる機能が提供されているかを確認する。
- ☐ **DB個別復旧:** ファイル全体ではなく、データベースのみを特定の時点に復旧できる柔軟性があるかを確認する。
- ☐ **バックアップデータの保管場所:** バックアップデータが物理的に異なるストレージやデータセンターに保管されているかを確認する。

4. セキュリティと運用管理

- ☐ **SSL証明書の自動更新:** HTTPS常時化のため、SSL証明書（Let's Encrypt等）の自動更新機能が提供されているかを確認する。
 - ☐ **PHPバージョン管理:** 最新の安定版PHP（PHP 8.x系）への切り替えが容易か、かつ旧バージョンへのロールバック機能があるかを確認する。
 - ☐ **WAF (Web Application Firewall):** SQLインジェクションやクロスサイトスクリプティング対策として、WAFが標準で提供されているかを確認する。
 - ☐ **IP制限機能:** AI連携APIなど特定のアクセス元以外からの不正アクセスを防ぐため、IP制限機能が利用可能かを確認する。
 - ☐ **技術サポート:** 障害発生時や設定に関する問い合わせに対し、迅速かつ的確なサポートが期待できるかを確認する。
-